

クラス	TU314A	担当教員	赤石憲昭
テーマ	人間と社会を正しく捉えるための教養と哲学		
著書・論文 研究課題等	「ホネットの批判的社会理論の批判性：現代における労働と承認の問題圏」 『情況』（特集：ドイツ現代思想の行方）11・12月号、情況出版、2007年 「希望はテロ」の背後にあるもの：秋葉原事件の承認論的考察」 『リプレーザ』第7号、社会評論社、2008年 「現代日本社会における承認問題：ホネットの承認論とその展開」 『社会文化研究』第20号、晃洋書房、2018年 「スマホをやりすぎると人間になれない?!：スマホ世代の人間観と承認をめぐる問題」 『共に生きる場を拓く』一粒書房、2019年 研究課題：「人間のあるべき姿」の探求（社会哲学・現代社会論）		
ゼミナール概要			
キーワード：人間、社会、承認、民主主義			
人間と社会について考えようとする場合、最低限、身に付けておくべき物の見方・考え方、社会科学を中心とした人文科学および自然科学も含む一般教養、その根底となるヒューマニズムに基づいた哲学を学びます。 【目的】 ①各自が自ら学ぶ姿勢を身につけること ②現代日本社会についてきちんと理解することができるようになること （例：新聞がちゃんと読める、民主的な憲法があるのになぜその内実が実現しないのかを理解する） ③幅広い視野から物事を考えるようになること ④人間を差別・排除しない人間観を身につけること 【方法】 共通文献の講読を基本とします。講義ではないので、各自がきちんと課題文献を読んでくることが求められます。文献自体をきちんと読めるようにすることはもちろんのこと、その内容を要約し、自分自身や現代社会と結びつけて考え、発表し、議論を行う方法も学習します（これらの作業が卒業論文作成の基礎になります）。 【授業計画】 3年次：分野を偏らせず、様々な分野の文献を読み、幅広い教養を身につけます。 たとえば、政治・経済の知識なしに、社会を理解することはできませんし、これでは新聞やニュースもわかりませんし、これから社会をどのようにしていけば良いのかも考えることができません（ちなみに、自分たちで社会のあり方を決めていくのが、民主主義社会です）。また、優れた文学作品に触れて感性を磨くことなしに、他者理解のための想像力や人間理解はなかなか養えません。そのためにも、3年次は、たくさんの文献を読み、自分自身の枠を最大限広げることを目指すとともに、自分自身の研究テーマを見つけてもらいます。 4年次：前期は、各自の研究テーマに関わる文献紹介、後期は、卒業論文の途中経過の報告を中心とします。 卒業論文のテーマは自由です。各自が興味を持ったことをさらに深めてください。			
担当教員からのメッセージ			
みなさんは、大学に入ってから夢中になって本や論文を読んだことはありますか？ 私は昨日、「＜いのち＞の承認と連帯の倫理をめぐる」という論文をとってもわくわくしながら読みました。自分の知らなかったことを知ること、世の中の真実や本質をつかむこと、自分とは異質の考え方や世界に触れること、自分には思いもよらない考え方や世界に出会うこと、これらはとてもエキサイティングな経験です。みなさんにもこのような経験を共有してもらえるように、とっておきの文献を用意しておきます。ゼミで一通りのことを行うつもりですので、現在の学力・知識は問いませんが、多くの文献を読むので、その覚悟のある人のみ応募して下さい。			